

ガングコ親父の

長男の士郎が「博喜がおいちゃんにありがとうって。ところで、今、オヤジいる？」と、電話をかけて来た。先月、かがんばなトンネルの夕陽見物に松次郎が博喜を連れて行ってくれたからだ。

「わかった、伝えとくわ。今、慌てて外に出て行ったけど、お父さん今日はそれどころではないのよ」と貴代は答えた。朝からそわそわしていた松次郎は「わあ〜」と大きな声を上げたかと思つて、なぜかインシシのように一直線に家を飛び出して行った、と貴代は言った。「今日、学の彼女が来るっていうのにね。」

松次郎はこの日のために手作りのくす玉を用意していた。昨年のクリスマス前に作り上げていた垂れ幕の文字を「いらっしやい」に変更してある。そのくす玉を今朝、用意しようと取り出した際、うかつにも踏んづけて潰してしまったのだ。

今日は花菜の初めての訪問なので、親子で一緒に昼ご飯を食べる予定だ。学が花菜を連れて来るのは屋なので、それまでにくす玉を修理しなくてはならない。

松次郎は修理材料を買いに文房具屋まで必死で走った。昨年捻挫で痛めた足首はまだまだ違和感があるが、そんなことは言っておられない。待ちに待った「学の彼女」がやって来るのだ。そのためにくす玉を修理するのだから。

「お父さん遅いわね。学たち、待ってるのに」松次郎はくす玉を慌てながら修理していた。階下からの2回目の呼び声にやと間に合った松次郎は、出来上がったばかりのくす玉を持って一階への階段に足を伸ばした。しかし、その瞬間、足を滑らせた。

「わあ〜！」というデカい声と「ドッ、ドッ」という派手な音に、階下で待つ3人は思わず腰を浮かせた。駆けつけると、階段の下で松次郎が仰向けに倒れている。「オヤジ、大丈夫か？」と学が声をかけた。くす玉のひもだけはしっかりと離さずに握りしめている。潰れて口が半分開いたくす玉のまわりには紙吹雪が散り、飛び出た垂れ幕の「しゃい」の文字が読み取れる。たぶん「いらっしやい」と書いてあるのだらう。

「しゃいって、恥ずかしがり」のことだ。オヤジがシャイねえ…。学は苦笑いをした。先日、学は花菜の家の入口で転けるし、今日は学の父親が階段から足を踏み外した。そそっかしいが、妙に人間らしい親子に花菜は温かみを覚えた。それに、年季の入った男が「くす玉」を作って歓迎してくれるなんて、今どきあり得ない話だ。用意された寿司をつまみながら花菜は子供のような松次郎の純粋さに、少し目頭を熱くした。「これは父からです」といって、花菜が松次郎に「しまっちゅ伝蔵」を渡した。花菜の父親と松次郎が知り合っただったこと、募金活動中に花菜と松次郎は顔を合わせていたこと等で話は盛り上がった。波る花菜に松次郎は焼酎をすすめた。花菜は意を決して「それじゃあ、今日は『親子飲み』で。黒砂糖はありますか？」と言った。親子飲みか、なんと優しくして機転がきく女性なんだろう。学にはもったいないほどだ。転けて尻に痛みが残る松次郎には、あつと百年分の幸せが訪れた。

奄美黒糖焼酎

しゃい
伝蔵

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。



25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
0997(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



<http://www.kurochu.jp>

お酒は20歳になってから。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児に悪影響を与えるおそれがあります。

親子飲みに乾杯!